

事業名

広報誌による加入促進
及び多文化共生社会づくり事業

事業概要

- 外国人の住民が増える中、「多種多様な社会を目指して」をテーマとした講演会と「ハラル食を食べながらの多国籍交流」の2部構成により、日本人住民と外国人住民とが交流を深めた。
- 事業を通して、外国人住民の世帯を含む10世帯が新規に加入した。

実施期間 令和5年10月10日～令和6年2月7日
参加人数 約60名
事業総額 30万円
(地域の底力発展事業助成金 30万円)

役割分担

《企画構成・渉外(1名)》副会長が事業統括責任者、広報委員長として広報誌企画、講師との交渉等を担当。
《運営・記録(5名)》広報委員会委員が会場の設営、ハラル食の準備、写真撮影等を担当。

主な経費(助成対象)

- 謝礼金 講師謝礼
カメラマン謝礼
広報誌掲載4コマ漫画作成
- 物品購入費 ハラル食用食材、ペットボトルお茶
- 印刷経費 広報誌
- 役務費 切手(広報誌発送)
- 委託料 広報誌デザイン

事業の開始から終了までの主な流れ

令和5年
10月10日 初回打合せ。広報誌頁数、掲載内容の決定、事業周知チラシの作成
10月20日頃 講演会の参加者募集開始
11月20日 第2回打合せ。講演会講師・内容、調理・提供するハラル食の決定
11月23日 講演会と交流会を開催。終了後に反省会実施
12月12日 第4回打合せ。広報誌の掲載記事決定と配置確認、原稿チェック
令和6年
1月14日 第5回打合せ。広報誌校了
2月7日 第6回打合せ。広報誌完成を報告。広報誌配布開始



今回の講演会・交流会を
特集した広報誌「桐望」

講演会と多国籍交流会で多文化交流を促進

自治会連合会の広報誌で成果を発信

地域に住む外国人らを講師とした講演会と多国籍交流会の2部構成による、多文化共生をテーマとしたイベントを開催。

当日は、講師を務めるバングラデシュ出身のカシムさん宅を自治会役員が訪ね、午前5時よりハラル食品の材料の準備と仕込みをし、午前8時からハラル対応をされた調理スペースで調理を開始した。

講演会では、カシムさんのほか、多国籍の子どもを受け入れている保育園の園長と理事長も講師として登壇。言葉や習慣の壁を乗り越え、力を合わせて地域づくりを進めていくための取組をそれぞれの立場から紹介した。

続く交流会では、鶏肉を使ったチキンシャルマ、サモ



ハラルフード

サとスナック菓子のようなパティシャブタなどのハラルフードを用意。バングラデシュ人20名を含め、

約60名が7グループに別れ、試食をしながら言葉を教えあうなど、触れ合いの場となった。

当日の様子は、自治会連合会の広報誌「桐望」で紹介。10,000部を印刷して9,500部を自治会全戸に配り、500部は関連施設にも配布した。



講演会の様子。左がバングラデシュから留学生として来日し、約20年を日本で過ごすカシムさん。現在、桐ヶ丘の都営住宅で暮らし、定期的に交流会を開催している

事業による成果・効果 多文化共生への理解が広がり外国人世帯の新規加入につながる

北区桐ヶ丘地区は、都営住宅団地が地域の大半を占めるが、現在は建替え事業が進む。入居者の構成も変化し、高齢化が進む一方で、アジア圏の人たちを中心に外国人の住民が増えている。会長の西さんは「言葉が通じない、習慣が違うなどで海外の人に不安を感じる住民もありますが、こちらから理解することがまず必要です」と指摘する。そうした中、今回の事業を通じて、外国人の世帯も含め10世帯の新規加入があった。「相互に理解を広げる機会となりました。今後も交流活動を工夫していきたい」と西会長は語る。加入した外国人世帯とは、地域の課題について話し合う機会を持つなど交流が進んでいる。

事業を振り返って

声

より多くの外国人住民が参加できる活動を

「令和5年度は、バングラデシュの人たちに中心になってもらいましたが、さらに多くの外国人住民が参加する継続的な活動モデルを構築していきたい」と副会長で、今回の事業を企画した江田さんは語る。自治会連合会では、4年度に英会話を通じた地域交流と地域課題の共有をテーマに活動を実施。6年度は多文化・多世代の交流を目的にeスポーツ大会を開催した。「外国籍の人も含めて新たな担い手の発掘にもなっています」と江田さんは笑顔を見せる。



お話を伺った皆さん。左から北区桐ヶ丘地域振興室室長の佐々木さん、自治会連合会会長の西さん、副会長の江田さん